

住民の生活を破壊し 農地を強奪する 暫定滑走路を閉鎖し、 成田空港を廃港にしよう！

成田空港会社は本日（10・22）暫定滑走路北延伸の供用を始めました。「成田空港新時代」「拠点として進化」などと鳴り物入りで宣伝しています。私たちはまったく怒りにたえません。肝心なことが隠されているからです。

右の航空写真を見て下さい。暫定滑走路南端には天神峰と東峰地区の人家と畑、神社、墓地が広がっています。そこには人の暮らしがあるのです！

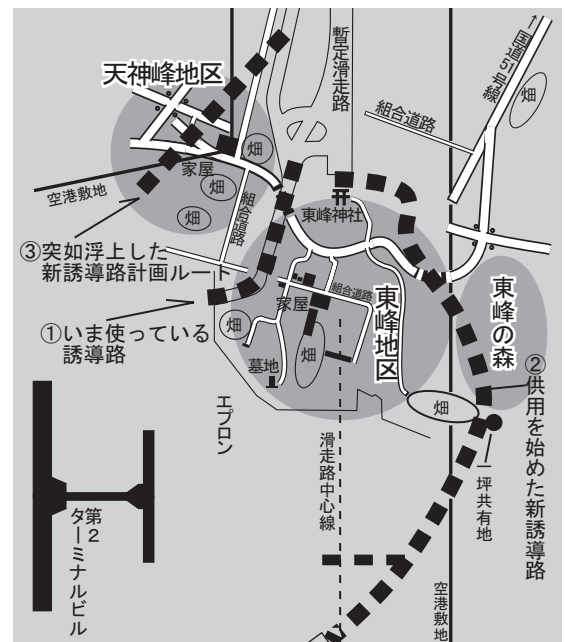
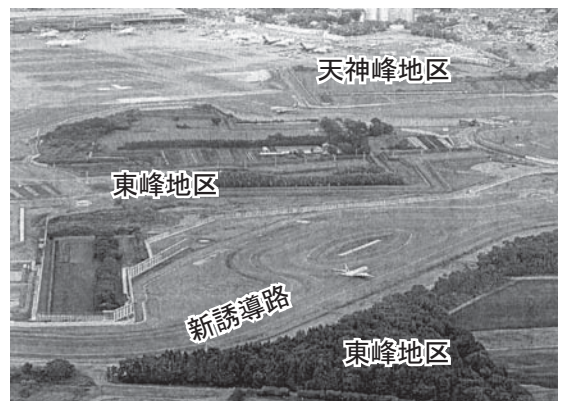
しかも造ったものは危険だらけ。滑走路南端をなんと航空機が横断します。東関東自動車道が、こともあろうに航空保安区域を通過します。「へ」の字誘導路では事故の危険をかえりみず着陸帯に飛行機を進入させます——民営化と利益追求による人命軽視は絶対に認められません！

●成田の破たんは、農民を虫けらのように扱ってきた結果です

成田空港は欠陥をかかえたまま永遠に完成しません。これは農民を虫けらのように扱ってきた結果です。前原国土交通大臣の「羽田を国際拠点空港（ハブ空港）にする」は、追いつめられたあげくのこたなのです（裏面参照）。

もうこれ以上の暴挙は許されません。「年間飛行回数30万回」「24時間空港化」など言語道断！ 現闘本部建物破壊、市東孝雄さんの農地強奪策動と「第3誘導路」計画、飛行直下の住民の暮らしをおびやかす「同時並行離着陸」は絶対に許さない。

反対同盟は、43年間不屈の農地死守・実力闘争で、敢然と闘います。ご支援下さい。



暫定滑走路は、着陸の障害となる東峰神社の社を避けるため、滑走路敷地を4メートルも土盛りした。このため滑走路とエプロンを結ぶ誘導路(図①)は急坂・急カーブで使い物にならず、2本目(②)を造って7月に供用した。ところがこれは滑走路の先端を横切る構造でたいへん危険。そこで場当たり的に3本目(③)を造るといふ。こんなデタラメは許されない！

北延伸の供用 徹底弾劾！

前原国交相発言と 森田知事ら 首長の言動に抗議！

前原国交相は10月13日、羽田を国際拠点空港（ハブ空港）とする考えを表明しました。これに対して知事や周辺首長が「寝耳に水」「民主主義に反する」などと騒いでいますが、じつにおかしな話です。

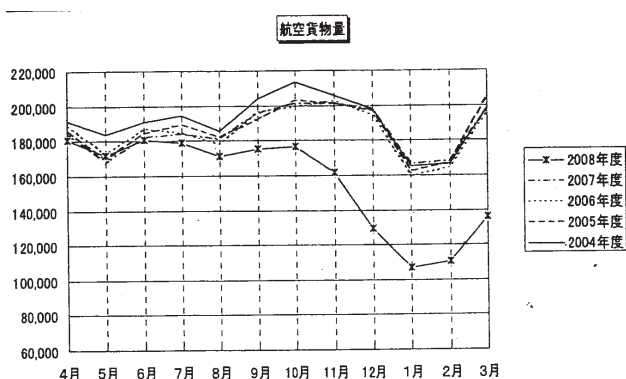
国の言うがままに住民の声を踏みにじり、空港づくりを進めてきたのは当の首長たちではないでしょうか。「年間30万回」で経済波及効果が「1兆1388億円」（首長たちで構成する都市づくり推進会議の試算）などという無責任なデマ宣伝はなんですか！

●正義を確信、農地を守る

これに対して、反対同盟は空港建設の不当を訴え一貫して闘い続けてきました。その正しさが、今、明らかになっていると思います。

大恐慌は戦争をもたらします。航空需要が底なしに下がり続ける今、「年間30万回」「24時間空港化」を打ち出すのは、鳩山政権が掲げる「東アジア共同体」構想と軍事空港建設のためなのです。

成田空港は廃港あるのみ。反対同盟は闘いの正義を確信し不屈に闘います。



グラフは航空貨物のようすです（2004年度～08年度）。いちばん下の折れ線が08年度。大きく下がっているのは一目瞭然です。そもそも航空需要はつくられたものでした。それが世界的な不況で激減し、回復の見込みはありません。（旅客も同様）

“農地法で農地を取り上げる”

——この不当と闘う市東さんの闘いを支援して下さい

本来、農地法は農地と農民の権利を守るための法律です。ところが空港会社は、この農地法を使って、農民から農地を取り上げるという暴挙にのりだしました。

場所は暫定滑走路の誘導路にかかる市東孝雄さんの畑です。祖父の代に開墾してから90年間耕してきました。農地解放で無条件に自作地となるべき畑でしたが、適正になされず小作地として残りました。

空港会社はこの畑を、21年前の1988年に市東さんの同意を得ることなく、元の地主から違法に買収しました。

しかも、返還を求めて空港会社が指定してきたのは、市東さんが一度も耕作したことのない土地を含むなど矛盾だらけ。これまで何の問題もなく耕し続けてきた一部の畑を「不法耕作」と決めつけるなど実情に反するものです。

●収用法が失効したあげくの暴挙

成田空港は、長期にわたる農民の抵抗で土地収用法が効力を失い、今では強制的に農地をとりあげることができません。農地法を乱用して取り上げるという異常はこのためです。

この問題の根底には、強権による空港づくりと、国の農業切りすて策があるのです。



空港会社が取り上げる農地の一部。有機・完全無農薬の見事な畑がひろがっています

市東さんの農地を守ろう！